

静岡県レッドデータブックの改訂（甲虫）

平井剛夫

2019年3月、静岡県レッドデータブック（動物編）が改訂され、県のホームページで公表されました。この動物編の中の昆虫分野について、すでにチョウについては、本誌「自然史しずおか」第66号（2019年）で、トンボについては第68号（2020年）で説明されています。今回、甲虫類について解説したいと思います。

静岡県は海岸線のゼロから富士山の頂上の3,776メートルまでのわが国ではもっとも大きな標高差をもち、伊豆半島、南アルプス、さらに長い海岸線をもったきわめて変化に富んだ地勢と豊かな植生にともなって、昆虫相も南方系から北方系の種を包括した多くの種が生息しています。静岡県で2017年までに記録された甲虫類は114科4,923種で昆虫類の全種7,306種のうちで67%を占めることからみて、いかに昆虫類のうちの多数の種類を含んでいるグループであることが示されており、実際、改訂がおこなわれたこの15年間に766種が新たに記録されています。

このデータブックにレッドリストされた昆虫の種類の中の絶滅、絶滅危惧IA、IB類、絶滅危II類、準絶滅危惧に含まれる甲虫類の総種類は26種を数えあげることができましたが、そこに含まれるゲンゴロウ類、ガムシ類、ミズスマシ類等は、池沼や湿地もしくは海岸に生息する水生や海浜性の昆虫であり、生息に適した食物としての水生生物や海浜の生態系に依存する昆虫であることは明らかです。

さらに情報不足（DD）として要注目種（N-I、現状不明）種のコガネムシ科のダイコクコガネは「近年、採集記録が確認された」ため、ランクダウンの変更がありました。また、要注目種（N-III 部会注目種）であったオサムシ科のジャアナヒラタゴミムシは、本年度資料調査により本県での記録がないと判断され、カテゴリーから削除されました。

昆虫類の分類群の甲虫類において、2019年の改訂によって、2004年の絶滅（EX）は、2種が1種に、絶滅危惧IA類（CR）は1種が1種、絶滅危惧IB類（EN）は1種だったのが2種に、絶滅危惧II類（VU）は0種だったのが10種、

準絶滅危惧（NT）は7種が12種と多くの変更があり、それぞれのカテゴリーに該当する種は種類が同数もしくはは増えています。以下、甲虫類において静岡県内の絶滅および、絶滅危惧となっている主要な種について概要を解説します。

1. 絶滅 EX 類

スジゲンゴロウ：2004年版のカテゴリーで絶滅（EX）となっていた種で、2019年でも絶滅種として変更なしとされています。県内では伊東市（1959年採集）と榛原郡金谷町（現島田市）（1950年採集）の記録があるだけで、伊豆半島の古い昆虫目録にデータのない記録があるようです。主に平野部の水生植物の繁茂した池沼に生息して、水田や休耕地にも見られたようです。国外では東南アジアに広く分布し、関東以西の本州の記録があります。平地の水田に依存していたため、生息環境が失われて絶滅した可能性が高いとされています。

2. 絶滅危惧 IA 類

コガタノゲンゴロウ：2004年版のカテゴリーでは絶滅危惧IA類（CR）とされていましたが、2019年の改訂では絶滅危惧IA類で変更なしとなっております。次に紹介するゲンゴロウと同様、ゲンゴロウ科の体長24～27mmの大型の種類で、幼虫は高温により適応し、成虫はより高い移動分散能力をもっているとされています。

昨年2019年の12月に袋井市の個人宅の庭に設置したブラックライトに飛来した本種の捕獲個体と写真画像が筆者に届けられ、その報文が「駿河の昆虫」最新号で現在印刷中となっております。捕獲された日付が12月であったということに加え、過去、県内では伊豆半島、榛原郡金谷町（現島田市）の記録があるだけで、西日本では10年程前より採集記録があることから今後の調査が期待されています。

3. 絶滅危惧 IB 類

ゲンゴロウ：2004年版のカテゴリーでは絶滅危惧II類（VU）となっていたのですが、2019

年の改訂により絶滅危惧 IB (EN) となりました。ゲンゴロウ科のうちで体長 30 ~ 40 mm のもっとも大型の種で、成虫は 4 月頃より活動を開始し、冬季は水中で越冬します。幼虫、成虫のいずれも肉食性で、他の小型の昆虫類や魚類を捕食します。かつては県内の伊豆半島、静岡市内、浜松市内での生息の記録がありました。最近では浜松市内で記録された 2001 年以降は、確認されていません。絶滅が危惧された背景には、池沼の埋め立てや護岸工事などで、生息環境が失われたことが考えられています。自然度の高い池沼を保全する必要があるとされています。

オオコブスジコガネ：2004 年版のカテゴリーでは、「なし」となっていました。確認記録がないと判断されて 2019 年の改訂により絶滅危惧 IB 類 (EN) となりました。コブスジコガネ科のうちで大型の種類で、国外では朝鮮半島、中国、インドシナ半島と広い分布域をもっています。砂浜の海岸に魚類や海鳥の遺骸について生息していたとされ、1940 年代には静岡市の記録があり、東京農業大学に所蔵された標本が残されていました。そのほか県内では磐田市で 1972 年に生息が確認されていますが、それ以降の記録はありません。海岸の護岸・公園化、

清浄化などが本種の生息には不適とされています。

4. 絶滅危惧 II 類 (VU)

カワラハンミョウ：2004 年版のカテゴリーでは、準絶滅危惧 (NT) となっていました。2019 年の改訂により絶滅危惧 II 類 (VU) となりました。ハンミョウ類 (現在オサムシ科のハンミョウ亜科に分類) の一種で、成虫は 6 月 ~ 9 月に出現し、海岸の砂浜で小昆虫を捕まえています。幼虫は砂の中に深い縦穴を掘って、巣穴の入り口で待ち伏せて捕食します。県内では 1987 年に静岡市の三保海岸に生息していたという記録がありましたが、現在では確認できていません。浜松市の遠州灘では現存する数少ない生息地のため保全が望まれています。

まとめ

今後、絶滅危惧に選定された甲虫類の種類が生息を確認されたり、分布域を広げたりしていくのか見極めてゆく必要があるものと思えます。次のレッドデータのリストアップがおこなわれるときには、絶滅危惧の種類ならびに情報不足や要注目種のリストにあげられている種数が少なくなつてゆくことを期待したいものです。

主要なレッドリストの甲虫類

カテゴリー	和名	科名	静岡県 RL2004	環境省 RL
絶滅 (EX)	スジゲンゴロウ	ゲンゴロウ	EX	EX
絶滅危惧 IA 類 (CR)	コガタノゲンゴロウ	ゲンゴロウ	CR	VU
絶滅危惧 IB 類 (EN)	ゲンゴロウ オオコブスジコガネ	ゲンゴロウ コブスジコガネ	EX EN	VU VU
絶滅危惧 II 類 (VU)	カワラハンミョウ	オサムシ	NT	EN
	キボシチビコツブゲンゴロウ	コツブゲンゴロウ	DD	EN
	ニセコケシゲンゴロウ	ゲンゴロウ	—	DD
	キタノツブゲンゴロウ	ゲンゴロウ	—	EN
	ルイスツブゲンゴロウ	ゲンゴロウ	—	VU
	オオミズスマシ	ミズスマシ	—	NT
	ミズスマシ	ミズスマシ	DD	VU
	コミズスマシ	ミズスマシ	DD	EN
	ヒメミズスマシ	ミズスマシ	DD	EN
	ヨツボシカミキリ	カミキリムシ	—	EN
準絶滅危惧 (NT)	オオヒョウタンゴミムシ	オサムシ	NT	NT
	コマルケシゲンゴロウ	ゲンゴロウ	—	NT
	コウベツブゲンゴロウ	ゲンゴロウ	—	NT
	キベリクロヒメゲンゴロウ	ゲンゴロウ	—	NT
	クロゲンゴロウ	ゲンゴロウ	DD	NT
	ガムシ	ガムシ	NT	NT
	ヒゲコガネ	コガネムシ	DD	—
	コガムシ	ガムシ	—	DD
	ヤマトオサムシダマシ	ゴミムシダマシ	NT	NT
	ガガブタネクイハムシ	ハムシ	NT	—
	オオルリハムシ	ハムシ	NT	NT
	ハマベゾウムシ	ゾウムシ	NT	—